

7月

は 同和問題啓発 強調月間です。

差別のない明るい社会を築くために



県では、毎年7月を「同和問題啓発強調月間」と定めています。部落問題（同和問題）は、日本社会の歴史的過程で形づくられた身分差別により、国民の一部の人々が、長い間、生活のさまざまな場面で差別を受けてきた問題で、今もなお続いており、今この瞬間も差別に苦しんでいる人がいます。

日本国憲法では「すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」（第14条）と法の下の平等をうたっています。また、市では令和2年12月に「直方市部落差別をはじめあらゆる差別の解消の推進に関する条例」が施行され、その中では、人権課題解決のための方策として人権教育及び啓発の重要性が説かれています。

しかしながら、部落問題（同和問題）をはじめとするさまざまな人権の発生は依然として後を絶ちません。また、令和3年に実施された福岡県民意識調査の中で「現在の日本社会において、あな

たは人権が尊重されていると感じますか？」の問いに「人権が尊重されていると感じる」と答えた人は19・7%と少数であり、全体の63%の人が「いちがいにいいえない」と回答し、多くの人が日本の社会は必ずしも人権が尊重されているとはいえないと感じているようです。

人権が尊重される社会づくりを目指し、部落問題（同和問題）をはじめとするさまざまな差別を解決するためには、一人ひとりの学び、気づき、行動が必要です。人にはそれぞれ違う価値観があり、さまざまな背景や事情を抱えて生きています。そこに生きる人々が「あなたも私も大切にかけがえない存在である」との認識を認め合い、人権問題を自分の課題として捉え、真剣に取り組んでいくことが大切です。市では、一人ひとりの人権が尊重され、誰もが幸せに、そして人間らしく生きられる社会を実現するための取り組みを行っています。みなさんともに人権の学びを深めていきましょう。

同和問題講演会

同和問題に対する正しい認識と理解を深めるため、県と市がそれぞれ講演会を開きます。

◎県主催

とき 7月22日（土） 午後1時30分～3時

ところ クローバープラザ 大ホール（春日市）

講演 「あたらしい部落問題」

講師 角岡 伸彦さん（フリーライター）

◎直方市・直方市教育委員会主催

オカリナ演奏と語りのハートフルコンサート

とき 7月25日（火） 午後2時～3時30分

ところ ユメニティのおがた 大ホール

講演 「現代の部落差別について考える」

～歌い継がれるメロディ、いのちのうた～

講師 山口 裕之さん

（マザー・アース人権啓発研究所主宰）

オカリナ奏者

人権問題に関するDVDなどの 視聴覚教材の貸し出し

市民・人権同和対策課では、無料で人権問題に関するDVDなどの視聴覚教材の貸し出しをしています。グループやご家庭での学習に活用し、人権感覚を高めましょう。

申込・問い合わせ 市民・人権同和対策課

（TEL 25・2105）

人権標語と作文

市内の小中学校の児童・生徒から、人権についての標語と作文を募集しました。今年は、標語78点、作文13点の応募の中から次のとおり入選作が決まりました。児童・生徒が自分自身の心にある「人権」についてありのまま表現したものです。これらの標語は、市内の小中学校と公共の施設、合わせて25か所に啓発標語看板として、7月から2か月間掲示します。

令和五年度 人権標語

SNS

笑顔になれる 投稿を

直方南小6年

中村巴乃

全員で

うれしい言葉 つなげよう

福地小6年

松浦愛心

想像を

広げて考え 優しい仲間

下境小6年

長野利娃

違うところ

そこがいいから ぼくなんだ

直方一中3年

和田峯大生

だいじようぶ

ぼくがいるよ すぐそばに

中泉小5年

相良賢誠

私は私

一人ひとりが かがやく未来
直方北小6年 有馬百華

その言葉

ホントに誰も傷つかない？
直方西小6年 西田璃奈

これが普通

ほんとに普通か 考えて
直方三中3年 田中生磨

ちゃんとあるよ

この世界のまん中に 君の居場所
直方東小6年 大野恋路

優しさは

みんなで分ける 宝物
直方二中2年 坂東美緒

比べない

自分の個性 出してみよう
感田小6年 加藤碧唯

だいじょうぶ

そのかけ声が えがおの数
上頓野小5年 安田圭織

声かけて

友だち安心 ぼく笑顔
植木小6年 谷口秀斗

やさしさで

みんなの心が 笑顔になる
新入小6年 和田美幸

友達

のくもった表情 見逃すな
植木中2年 野村皇汰

やさしさは

笑顔を増やす 心のまほう
直方三中1年 古賀太陽

消さないで

それぞれの色 大切に
直方二中2年 松田瑞希

さしのべた

その手一つで 救われる
直方東小6年 阿部那美

ひとことで

つながるきずな ありがとう
直方二中1年 野見山英太

思いやり

勇気を出して 私から
直方二中2年 佐藤拓充

世界中

個性を光らせ カラフルに
感田小6年 山下すみれ

友だちの

やさしい言葉に あこがれる
上頓野小5年 内田大洋

やさしさで

みんなのところに はながさく
感田小6年 吉野ゆいな

思いやり

小さな小さな 積み重ね
植木中2年 高橋愛司

「ぼくなんか」

いいえあなたも 大事です
直方二中1年 鐘江璃乃

権文 人作

「性別の偏見がない世の中へ」

直方市立植木中学校 三年 岡松 葵

私は、この世の中は性別による偏見が多く見られると思う。例えば、男だからたくましく、泣いてはダメだとか、女だからおとなしく、静かにしていかないといけないなど、自分の在り方を性別によって縛られることがある。私は、このような性別の偏見はおかしいと思う。なぜなら、人の性格は性別によって決められる物ではないからだ。男の人だって、気が弱い人もいるし、強い人もいる。女の人だって、おしとやかな人もたくましい人もいる。私はそれでいいと思う。性別のせいで、自分らしくいけないなんておかしいことだ。

他にも、性格だけでなく、外見も性別による偏見があると私は思う。なぜなら、着る服装に男らしさ、女らしさが強く根付いているからだ。男の人は男らしい服装、女の人は女らしい服装が当たり前になっている。でも、服装だって性別関係なく、自分の好みで選んで良いと思う。私は、心も身体も女だけど、カッコいいデザインのストリートファッションが好きで、普段からよく着ている。こんな感じで、自分の好みの服装を着るのが一番だと思う。でも、ふと考えてみると女性のカッコいい服装は見慣れているけど、男性のかわいい服装は見慣れていないなと思った。女性のズボンとは違和感のないのに、男性のスカートは違和感を感じる。私達は男性はズボンだという固定概念にとらわれてしまっている。でも、スカートを履きたい男性もいるのだから、この固定概念にとらわれず、男性のスカートに違和感を感じない世の中になってほしいと思った。そうして、みんなが自分の好きな恰好を誰の目も気にせずにできると良いなと思った。最後に、性格や外見に性別の偏見が無くなってほしいと私は強く思う。そのために、男はこうであるべき、女はこうであるべきという固定概念にとらわれずに生きていきたい。